

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 順序を考えながらたんぼぼの仲間の増やし方を読むことができる。

思考力、判断力の育成

- ◇ 学年 第2学年
- ◇ 単元名 読んで調べたことを紹介しよう 「生きものしょうかいブック」を作ろう
- ◇ 本時の目標 たんぼぼがどのようにして仲間を増やすのかを順序に気を付けて読むことができる。
- ◇ 学習の流れ (8時間目/全10時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て)	評価規準 [観点] (評価方法)
<p>1 前時までの学習を振り返る。 ○ 「たんぼぼしょうかいカード」を見ながら学習を振り返る。</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p> <p>3 教材を音読し、仲間の増やし方が説明されているところに線を引く。</p> <p>4 板書の挿絵カードの順序を考えながら、仲間の増やし方を確認する。</p>	<p>◇自分が書いた「たんぼぼしょうかいカード」や板書の挿絵を見ながら、たんぼぼの成長の順序を確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">たんぼぼのなかまのふやし方をじゅんじょがわかるようにしょうかいしよう</div> <p>◇サイドラインを引きながら、仲間を増やす順序に気を付けて読ませる。 ◆「わた毛」や「たね」などのキーワードに着目させ、仲間の増やし方がどこに書いてあるのかを見つけさせる。</p> <p>◇実態に応じて、不要な挿絵を入れたり、不足している挿絵を考えさせたりして、仲間の増やし方の紹介として何を伝えればよいかを考えさせる。</p>	<p>「なかまのふやし方をしょうかいする」という目的意識をもって読ませましょう。</p> <p>★読む目的を意識させることによって、大事な言葉が明らかになります。分かりやすく紹介するためには、<u>順序よくまとめる</u>ことが必要になります。</p>
<p>5 「たんぼぼしょうかいカード」に仲間の増やし方をまとめる。</p>	<p>◇挿絵と対応するように、仲間の増やし方をまとめて書かせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【観点】読み取った仲間の増やし方を順序よく書いている (例)・花がしぼむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くき(じく)がたおれる ・み(たね)ができる ・わた毛ができる ・くき(じく)がおき上がってのびる ・風でわた毛をとばす </div> <p>◇書き終わったら、カードを見ながら友だちに紹介するように話す練習をする。</p>	<p>読み取ったことを順序よくまとめて書かせましょう。</p> <p>★挿絵と対応させてまとめさせることで、紹介する相手を意識させるとともに、<u>何をどの順序で紹介する</u>のかが明確になります。</p>
<p>6 板書の挿絵を指しながら「たんぼぼしょうかいカード」に書いたことを発表する。</p> <p>7 自分の書いたカードを見直し、振り返りをする。</p> <p>8 次時の確認をする。 ○ 「たんぼぼしょうかいカード」の書き方を生かして、自分が本で読んだ生き物の「しょうかいカード」を書く。</p>	<p>◇「まず」「つぎに」など順序を示す言葉を使って分かりやすく話すように助言するとともに、挿絵を指しながら相手意識を持って説明させる。</p> <p>◇自分の書いた「たんぼぼしょうかいカード」を友だちの発表と比べさせ、見直しをさせる。 ◆不足する部分などがあれば、教材文を書き抜いてカードに記入させる。</p> <p>◇アサガオなどと比較させながらたんぼぼの仲間の増やし方の特徴に気付かせるとともに、様々な生き物が生きていったり仲間を増やしたりするために工夫していることについて興味・関心をもたせる。</p>	<p>・たんぼぼの仲間の増やし方を読み取り、順序よくまとめている。〔読む能力〕(ワークシート)</p> <p>★日常的に関連図書の読み聞かせやブックトークなどを取り入れながら、<u>並行読書</u>を促しましょう。</p>

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 伝えたい事柄について、情報（具体的事実）と自分の気持ちを明確に区別して書くことができる。

思考力、判断力、表現力の育成

- ◇ 学年 第1学年
- ◇ 単元名 体育祭の案内文を作ろう～案内する相手に応じて、情報と自分の気持ちを明確に区別して書く
- ◇ 単元の目標
 - ・行事の案内をする文章の形式や役割を意識して簡潔に文章を書こうとする。（関・意・態）
 - ・行事の案内をする相手に応じ、自分の伝えたい気持ちを相手にとって必要な情報と関連づけて書くことができる。（書くウ）
 - ・件名と本文の字の大きさを考え、読みやすくとのった楷書で書くことができる。（伝・文書写ア）
- ◇ 設定した言語活動 行事等の案内や報告をする文章を書くこと（言語活動例 ウ）
- ◇ 単元の展開（2時間目／全5時間）

次	時	主な学習活動	言語活動の充実に関する留意点
一	1	・学習の見通しをもつ ・案内文の書き方を確認する。	・「体育祭の案内を書く」という具体的な活動を通して、相手と目的を明確にする。 ・相手に応じて必要な情報が違うことを理解させ、相手に応じて自分の気持ちを的確に伝える項目を考えさせる。 ・実際に手渡した相手の反応を踏まえて振り返らせる。
	2	・相手が知りたいこと、自分が伝えたいことを整理する。	
二	3 4 5	・案内文の下書きを書く。 ・案内文の交流をし、アドバイスをもとに清書をする。 ・振り返りをする。	

- ◇ 本時の目標 案内文を書く相手によって必要な情報が違うことを理解し、項目を設定することができる。

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 〔評価方法〕
1 本時のねらいと学習の流れを確認する。	◇単元計画を確認し、相手に応じてわかりやすい案内文を書こうという意欲を高める。	単元全体の見通しと、課題意識をもたせましょう。 ★実際に案内文を渡すことを意識させることで、生徒が必然性をもって項目を考えることができます。
2 どの相手でも必ず必要な項目を話し合う。(1)	①行事名、日時、場所、雨天時	
3 2で考えた項目以外に、相手に応じて必要な情報と自分が伝えたい気持ちをノートに書く。(2)	②自分の気持ち（♥）と相手が必要な情報（☆） 家族：♥自分の決意、応援してほしい 等 ☆自分が出る競技、演技やスタート位置(図)等 地域：♥地域の人に教わった〇〇音頭を踊る姿を見せたい、地域の人にたくさん来て欲しい 等 ☆〇〇音頭の出番、地域の人が座る席(図) 等 ◆項目が思い浮かばない生徒には、例を示し、書こうとする相手に必要な情報かどうかを判断させる。	項目を設定した理由を説明せましょう。 ★交流させることにより、書き手から読み手に立場を変えて、項目を見直すことができます。
4 項目として設定するものに印を付ける。	◇案内文の分量を確認し、自分の伝えたい気持ちが、よりの確に伝わる項目を選び、優先順位を付けさせる。	
5 設定した項目をグループで交流する。	◇案内文を書く相手に応じて、なぜその項目が必要なのか、自分が伝えたい気持ちはどんなことかを述べながら話し合わせる。	・相手に応じて必要な情報と自分の気持ちを整理して項目を設定している。〔書く〕（ノート）
6 項目を見直し、修正する。	◇交流したことを踏まえて項目を見直し、赤ペンで修正させる。	
7 振り返りと次時の確認する。	◇「相手に応じて必要な項目を設定することができたか」という視点で振り返らせる。	

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 複数の現代語訳を読み比べることにより、読みを深めることができる。

思考力、判断力の育成

- ◇ 学年 第3学年
- ◇ 単元名 源氏物語 須磨の秋
- ◇ 本時の目標 源氏物語の複数の現代語訳を読み比べ、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。
- ◇ 学習の流れ (4時間目/全5時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 [観点] (評価方法)
<p>1 前時までの学習内容を振り返る。</p> <p>○ 前時までの学習内容を確認する。</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p>	<p>◇ワークシート等を用いて、文章に描かれている源氏物語の世界や文法的知識など学習した内容を振り返らせる。</p>	
<p>複数の現代語訳を読み比べ、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。</p>		
<p>3 複数の現代語訳を読み比べる。</p> <p>○ 読み比べの視点を明確にする。</p> <p>○ それぞれの現代語訳の共通点や相違点をまとめる。</p> <p>○ 自分の行った現代語訳と比較する。</p>	<p>◇統一した読み比べの視点は指導者が示し、追加する視点は各自で考えさせる。</p> <p>◇一人一人の生徒の視点を大切にする。</p> <p>◆読み比べの視点が分からない生徒には、単語の訳し方の違いに着目させる。</p> <p>◇現代語訳で気になる箇所には傍線を引き、教科書の原文に立ち返らせる。</p>	
<p>4 読み比べた結果を話し合う。</p> <p>○ 小グループで話し合う。</p> <p>○ なぜ、現代語訳により違いがあるのかを考える。</p> <p>○ お互いの説明から新たな見方や感じ方に気付く。</p>	<p>◇根拠を明確にして話し合わせる。</p> <p>◆現代語訳の作者についての知識を説明する。</p> <p>◇原文を大切にすることを指導する。</p> <p>◇現代語訳からも、教科書の原文と同様、登場人物の行動や心情を読み取ることができることを実感させる。</p>	
<p>5 本時の学習内容を確認する。</p> <p>○ 学習を振り返り、感想を書く。</p> <p>6 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>◇どの現代語訳が一番気に入ったかを、その根拠とともに記入させる。</p> <p>◆自分の行った現代語訳と近いものを選ばせる。</p> <p>◇本時の目標について振り返らせ、自己評価シートに入力させる。</p>	

視点を明確にした上で、読み比べさせましょう。

★現代語訳比較マトリックスなど、ワークシートを工夫することで比較させやすくなります。

原文を大切にすると、という視点を明確にさせましょう。

★原文を大切にすることで、登場人物の行動や心情を読み取らせやすくなります。

・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。〔読む能力〕(ワークシート)

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 古典の表現効果を考えながら、掲示物を創作することができる。

思考力、判断力、表現力の育成

- ◇ 学年 第1学年
- ◇ 題材名 掲示物の創作
- ◇ 本時の目標 漢字や仮名について学習してきた内容を生かし、古典の表現効果を考えながら、掲示物を創作することができる。
- ◇ 学習の流れ (1・2時間目/全4時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 本時の目標を確認する。</p> <p>2 校内での掲示が必要な場所についてグループに分かれて話し合う。</p> <p>3 話し合った内容をグループごとに発表する。</p>	<p>古典の表現効果を考えながら、校内の掲示物を創作しよう！</p> <p>◇グループ編成についてはあらかじめ決めておく。 ◇司会者、記録者、発表者を決めた上で、本時まで各自で調べてきた内容を出し合う。その後、グループとして創作に取り組む掲示物を一つ決めるよう指示する。</p> <p>【想定される掲示物の例】 ・トイレ・・・節水を促す掲示物。 ・玄関・・・土足禁止を表示する掲示物。 ・駐輪場・・・施錠の徹底を呼びかける掲示物。 ・教室のロッカー・・・整理整頓を呼びかける掲示物。 など</p> <p>◇各グループの発表時間は2分以内とするよう指示する。</p>	<p>話し合いに当たり、最初に明確な指示をしましょう。</p> <p>★明確な指示をすることにより、話し合いが段取りよく進みます。</p> <p>根拠を明らかにして説明させましょう。</p>
<p>4 掲示物の内容についてグループで話し合う。</p> <p>○どのような文言にするか。</p> <p>○どの書体・書風にするか。</p> <p>○どの筆を用いるか。</p> <p>○どの紙を用いるか。</p> <p>○どのような構成にするか。</p>	<p>◇書体・書風の選定に当たっては、表現効果を第一とし、これまでに学習してきた漢字や仮名の古典を掲示物の創作に生かすよう指示する。 ◇根拠を明らかにして自分の考えを述べるよう指示する。 ◆表現方法の選定に時間がかかっているグループがあれば、掲示する場面を具体的にイメージできるよう助言する。</p> <p>【助言の例】 ・例えば、漢字の書の学習で取り上げた「孔子廟堂碑」には、どのような特徴があったか振り返ってみよう。 ・周囲の雰囲気（環境）に調和させるにはどのような書体・書風が合うだろう。 ・紙面の大きさはどのくらいが適当だろう。</p>	<p>★根拠を明らかにさせることにより、これまでの学習内容を振り返らせることができます。</p>
<p>5 話し合った内容をグループごとに発表する。</p> <p>6 指導者の講評を聞く。</p> <p>7 本時の振り返りと次時の確認。</p>	<p>◇質問については、すべてのグループの発表が終わってから行うよう指示する。 ◇講評の内容については、生徒たちの主体性を損なうことがないように留意する。 ◇各自の振り返りカードに記入させる。 ◇必要な用具・用材については、各グループの司会者が一括して申し出るよう指示する。</p>	<p>・漢字や仮名について学習してきた内容を生かし、古典の表現効果を考えながら掲示物を創作している。〔芸術的な感受や表現の工夫〕 (発表内容、行動観察)</p>